

**平成23年度 第3回 東京都地方独立行政法人評価委員会
高齢者医療・研究分科会議事概要**

1 日 時

平成24年2月15日 水曜日 午後1時58分から午後3時3分まで

2 場 所

東京都庁第一本庁舎33階北側 特別会議室N1

3 出席委員

高久分科会長、近藤委員、鈴木委員、南委員（分科会長を除き、五十音順）

4 議 題

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター役員報酬規程の改正に係る意見聴取

5 報告事項

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター平成23年度上半期実績報告

6 その他

第二期中期目標の作成に向けた検討状況等について
平成24年度評価委員会開催スケジュールについて

7 議事概要

開会

(1) 事務局より地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター役員報酬規程の改正について説明

【質疑応答・委員意見】 太字ゴシックが委員意見

分科会の意見としては、「社会一般の情勢に適用した改正であり、適当である。」という意見で決定された。

(2) 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターより平成23年度上半期の実績報告について

【質疑応答・委員意見】 太字ゴシックが委員意見

緩和ケアは、がん患者が中心になるのか。

(法人回答)

緩和ケア病棟はがん患者が中心となる。緩和ケアチームとしては、がん患者に限定せずその他の病棟の患者も対象として、ケアを行う予定。

認知症疾患医療センターに指定されたとのことだが、入院患者のうち、認知症患者は何パーセントくらいか。

(法人回答)

約30パーセントくらい。

外部研究資金の獲得が順調のようだが、文科省の科学研究費補助金か。

(法人回答)

外部研究資金の約半分が、文科省と厚労省の科学研究費補助金である。残りの半分は、受託研究費や共同研究費などである。

近年、救急患者のうち高齢者が占める割合は大きく、かつ、入院治療が必要な高齢者患者は増えてきている。このような背景の中で、健康長寿医療センターの救急部門のあり方は、注目を浴びると思う。消防庁と連携しつつ、救急医療の強化に努めてほしい。

認知症疾患医療センターとして地域の病診連携に取り組むに当たっては、地域の認知症サポート医の活動とリンクすることが重要である。地区医師会と協力関係を築いてほしい。

健康長寿医療センターのような大病院で退院支援に積極的に取り組んでいることは画期的である。退院時のカンファレンスをより一層進めて、東京の大病院の退院支援モデルとなしてほしい。

震災時における水、電力、在庫の確保や、帰宅困難者に提供する水、食料、待機場所等の確保について、具体的なイメージを持って対策を立てておく必要がある。

研究の成果をみると、面白い内容が多い。これを臨床に活かせるとよいと思う。患者の増にもつながるのではないか。

(3) 第二期中期目標の作成に向けた検討状況等について

【質疑応答・委員意見】 太字ゴシックが委員意見

中期目標作成に向けた論点としては、それぞれの取組を横串にする「患者サービスの向上」という視点が重要なのではないか。

(4) 平成24年度の評価委員会開催スケジュールについて